

2 日目 (11 月 26 日) さとーさんのレクチャーノート  
 いろいろな映像表現・構成—「1 分間」でどれだけのが伝わるか

<キーワード>

オランダの 1 分間映像の映画祭「The One Minutes」、若者が応募できる「The One Minutes Jr.」  
 1 分間の映像には可能性がある、1 分間でもいろいろなことを伝えられる  
 丸いストーリーボードで、つくりたい映像の全体を見通しながら計画する

<レクチャーで話されたこと>

スライド P1 「1 分間」の映像でなにができるかを話す。  
 1 分間は短いようだが、いろいろなことが伝えられる。  
 参考映像を見て、「1 分間」という時間、これくらいの情報があるということをつかんでほしい。  
 テーマは、自分時間のことを伝える、だれかのことを伝えるなど、いろいろなことが考えられる。  
 このワークショップでは「水」をテーマとして考える。

スライド P2 1 分間の映画祭「The One Minutes Jr.」。  
 オランダの「The One Minutes (1 分間の映像祭)」で 2006 年、07 年、08 年と 3 回連続で審査員をして、「1 分間」に興味を持った  
 成人(おとな)がエントリーする部門とジュニア(12 歳～20 歳の若者)がエントリーする部門がある。  
 3 部門—The Best of the World(世界で一番)、Inside Out(自分の内面を見せる)、Self Portrait(自画像)—がある。  
 いろいろな作品が応募されていた。  
 右上の写真 西アフリカの小国、シエラレオネからエントリー。紛争の多い国で、少年がおもちゃの銃を持ち「わたしわ・・・」という 1 分間の映像で、とてもすばらしかった。

スライド P3 The One Minute Jr. (2006 年オランダのアムステルダム、07 年ベルギーのアントワープ)。  
 とてもおもしろい映画祭で、とても刺激を受けた。  
 会場は古い劇場。  
 参加者をアムステルダムに招待して、1 週間いっしょに食事や観光をしながらエントリー作品を観た。  
 審査員は、おとなプロ審査員と、前年度の受賞者が組んで審査をおこなった。  
 1 回目はスウェーデンの高校生、2 回目はアイスランドの高校生、3 回目はトルコの高校生と 1 組になってエントリー作品から選んだ。  
 参加者は高校生が一番多かったが、12 歳くらいの子どももいた。  
 クリエイターズミーティングもあり、ヨーロッパのいろいろなワークショップ運営者が発表するなど、情報の共有ができた。

スライド P4 日本の学校での「1 分間」の映像制作。  
 映画祭から刺激を受け、日本に戻ってから、いろいろな学校で「1 分間映像のワークショップ」をおこなった。  
 参考として「1 分間の映像」を見てみよう。



Self Portrait 部門 駐車場のようなところに絵をかいて、「ぼくの日」を撮影。ばかばかしいが、よい。ピクシレーション(人間コマ撮り)。



とても感心した。アフリカ、コンゴの若者が毎日のわたしの食事として、食事情を1分間の映像にした。火曜日、金曜日はない・・・土曜日の晩ごはんだけはけっこうある、という風に。

オランダのヘリット・リートフェルト大学(ヘリット・リートフェルト・アカデミー)の大学院生がワークショップを運営する。5人一組で各国を巡回して、10日間のワークショップをおこない、参加者の1分間映像を映画祭にエントリーする。



タイトルは『Wishing Tree(希望の木)』。水が少ない場所で希望の木を植えるというメッセージが伝わり、よい作品と思う。



コンゴの作品。小麦の価格が3日前ならこれくらい。2日前になると同じお金で買える量が半分になる。昨日また半分に。やがてごく少量になるのではないかと、食料事情をしめしていた。



Inside Out 部門、ロシアの12歳の少女の作品。自分の内側を見せる。子どもたちが遊ぶかわらで風船をふくらませる少女。風船が割れると、みんな消えてしまう。このように、とてもかわいい作品もあった。



Inside Out 部門でわたしが1番に選んだ作品。僕は中国語が話せない、オルガンも弾けない、片手でひもが結べない、歌が歌えない、車を運転できない、銀のチェーンをつけられない、バスケットボールができない、絵もかけない、成績もよくない・・・だけど、僕はこの映像を撮ることができる、というメッセージ。

とてもよいと思った。

日本に戻り、日本の専門学校に「Tokyo One Minutes」として、1分間の映像をつくらせた。  
アムステルダムに応募した作品。



東京はこんなところという映像。東京タワーがいっぱいあったり、ちょっと冗談(じょうだん)も交えた。



1分間でもいろいろな表現ができることを知ってほしい。

最後に、新宿に住む、さまざまなルーツの子どもたちとキャンプをしたときにつくったピクシレーション。



全員が参加した映像「みんなのおうち」。

合宿の帰る直前に思いついた、映像あそび。

スライド P6 1分間で映像をつくってみよう！—丸いストーリーボード  
 自分の中で「1分間でこんなことができる」と考えながら、体感(たいかん)してほしい。

### 1分間で映像を作る

#### 丸いストーリーボード (円コンテ)

- 1分間という時間を想定する  
例：導入・20秒～展開・20秒～結論・20秒
- 文字や写真や絵を加えてみる
- 時間を図りながら、想像する

どのような使い方も構わない

- \*1分間をつかむことが重要
- \*1分間で出来ることを判断する
- \*例えば、小説などを1分間音読してみる
- \*情報を量を考える

丸いストーリーボードは、0からはじまり、15秒、30秒、45秒と、アナログの時計をイメージしている。秒針(びょうしん)が1周(60秒、1分間)する間に、どのくらいの情報が入るかを考えてほしい。1周をいくつかに分けて考える。たとえば3つに分けて、導入(どうにゆう)、展開(てんかい)、結論(けつろん)とすると、20秒ずつくらいで1つのストーリー(話し)ができる。あるいは3人ならば、1人20秒を担当して、「あなたはどんな水を飲んでいるか？」という質問をしていく、とか。

丸い円にしたのは、全体像(ぜんたい)が1枚で見える。全体像を把握(あはく)することに意味がある。1分でなく2分でもよいが、分かりやすく「1周で1分間」としてみた。The One Minute Jr.映画祭でいろいろと豊かな表現を見て、1分間でたくさんことができると実感した。

1分間にはかなりの可能性があり、情報をコントロールすれば、いろいろなことが伝えられる。

スライド P7 日目に提出してくれたワンページャー、毎日の飲み水、この水はどこから来ているか、なぜ水が足りないのか・・・など、グループで話し合い、ワンページャーを映像にする計画をつくってほしい。

### 1分間で映像を作る

丸いストーリーボード（円コンテ）  
 今回の場合は  
**「水に関する疑問・気づき」**を  
 撮影できるのか？を考える

例えば、ワンページャーから

- 毎日の飲み水はどうしているの？
- この水はどこから来ているの？
- どうして水が足りなくなるの？
- 学校では飲水はどうしているの？

一問一答の質問をグループで検討してみる

左側の丸いストーリーボードにあるように、それぞれのひとが「わたしの家で飲んでいる水」というようなことをスマホで撮影して、コメントを入れたりして、1人20秒くらいでおさめる、とか。

北京で売られている水はこう・・・

長崎には、こんなペットボトルがある・・・などを紹介してもよい。

なにが撮影できるか、水に対してどのようなことが1分間や2分間で伝わるかということを話し合ってみよう。

丸いサークルの中はどのように使ってもよい。

絵をかいてもいいし、写真を貼ってもいい。

全体で、このようなことができると、グループでイメージを共有する時に使いやすいと思う。

1分間の映像は映画祭のサイトに、とてもたくさんの映像がある。アニメーションもある。

さとーさんが紹介した1分間の映像 Google Drive >>

[https://drive.google.com/file/d/1MdyxrT2vp7uFsUGk7xYuVDv0zE4ndLsG/view?usp=drive\\_link](https://drive.google.com/file/d/1MdyxrT2vp7uFsUGk7xYuVDv0zE4ndLsG/view?usp=drive_link)

※ワークショップ参加者しか見られません。ダウンロード禁止です。

※Google Driveは中国からアクセスできない場合があります。

The One Minutes Jr.のサイト>> <https://www.theoneminutesjr.org/>

The One Minutes Jr.公式 YouTube >> [https://www.youtube.com/channel/UCE0QD\\_K34q-mJvv-0r1NcwQ](https://www.youtube.com/channel/UCE0QD_K34q-mJvv-0r1NcwQ)

<https://www.youtube.com/c/theoneminutesjr>

こまった時、こんなことやってみたい！と考えた時は、グループのメンバーと話してみよう！

講師やグループリーダーにも聞いてみよう！

のんきさん・・・アニメの制作

スーさん・・・マンガ的な表現

さとーさん・・・映像(ライブアクションなど)の制作

senyaさん、ニンさん、たかさん、メイさん、シトウさん・・・グループの話し合いに入って、みんなを助けてくれます

さとー(佐藤博昭)